

## 社長メッセージ



日本赤十字社  
社長 近衛 忠輝

第46回日本赤十字社医学会総会の開催を、心よりお慶び申し上げます。本学会は、日本赤十字社の5万7,000人にのぼる職員すべてが会員であり、医療のみならず赤十字が直面する様々な人道的課題についても議論ができるユニークな場があります。

今回の総会では「今こそ力を合わせ、医療の荒波を乗り越えよう」というメインテーマが掲げられています。少子高齢化が進み、医療のニーズが高まる一方で診療報酬の大きな伸びも期待できなくなれば、持てる力を最も効果的に発揮する以外にありません。赤十字の病院は共通の理念で結ばれ、全国に展開しています。そのスケールとネットワークのメリットを最大限に生かすことによって医療の質の向上と経営の改善を図り、地域住民の期待に応え続けられるようにすることを呼びかけたいと思います。

昨年は赤十字思想誕生150周年、国際赤十字・赤新月社連盟の創立90年という節目の年でした。この記念すべき年に私は連盟会長に選出され、各地を訪問する機会が増えました。日赤は海外での大きな災害や紛争の現場に医療チームやスタッフを多く派遣してきており、被災した医療施設の復興にも力を入れてきました。また、途上国の赤十字社と、長期にわたって保健や医療や看護教育等の分野での協力も進めてきました。そうした実績を知って、各国の赤十字社から、日赤に協力してほしいとの申し出を受けることもしばしばあります。病院を作りたいので手を貸してほしいといった要望や、人的交流を進めたいとの提案をいただくこともあります。カザフスタン赤新月社からは、核実験による被爆者治療についての医療協力を求められています。ロシア、ウクライナ、ベラルーシの赤十字社とのチェルノブイリ原発事故の犠牲者の救援以来続いている交流について知ってのことです。フィリピンやインドネシアの赤十字社からは、両国の看護師の受け入れについて、赤十字病院に大きな期待が寄せられています。先日の、足利日赤に勤務するフィリピン人看護師が初めて国家試験に合格したというニュースは、その期待を一層高めることになるでしょう。

こうした話は赤十字の中だけにとどまりません。先日、ユニセフの事務総長が来日した際には、連盟とユニセフが協力できることについて話し合う機会を持ちました。ここでは、国連のミレニアム開発目標で掲げられているヘルスケアの中から特に、妊産婦・乳幼児の死亡率低減、栄養状態の改善、予防接種の3分野が挙げられ、具体的に検討することになりました。医療が急速に国際化しているとの思いを、世界を回るなかでいっそう強く感じているところです。

世界を歩いていて感じるのは、国民皆保険制度を持ち、誰もが比較的低額な費用で高度な医療が受けられる日本の医療システムは、世界に誇れるものだということです。

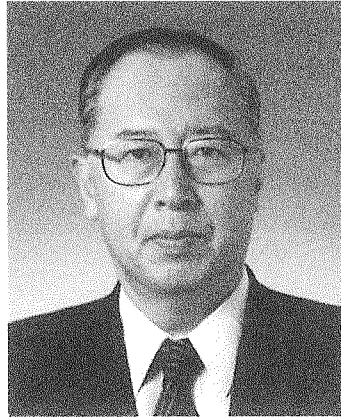
日本国内ではこの間、国民医療費の増加を抑制しようという動きがあり、その影響が病院の経営を圧迫している状況にあります。しかし、OECD（経済協力開発機構）の統計によれば、日本の医療費は他国と比べて決して高くはありませんし、医療スタッフの数も多くはありません。そのような中でも日本の医療システムが世界的に見ても素晴らしい水準を保っていられるのは、多くの関係者の献身と犠牲があればこそであり、この犠牲をいかに軽減しながら今のシステムを守っていくかについて、私たちは考えなくてはならないでしょう。

赤十字病院は公的医療機関という位置づけのもと、独立採算で運営しています。各病院は赤十字病院としての特色の発揮に努めながらも経営改善に向け努力をしていますが、それでも経営が苦しいのには、制度的な問題もあるのではないかと感じています。

日本の医療制度をより良くするためには、グループとしても大きい92の赤十字病院の抱える課題を分析し、積極的に情報提供や提言を行っていく機能を持つべきだと考えます。

この医学会が、赤十字の様々な視点から「医療の荒波を乗り越える」ための建設的な情報発信の機会となり、ひいては日本の医療の未来を切り拓くために、実り多きものとなることを心より期待いたします。

## ごあいさつ



日本赤十字社医学会  
理事長 山田 史  
(日本赤十字社事業局長)

本医学会も今年で46回目の総会を迎えることができました。これもひとえに会員の皆様方のご支援ご協力のおかげであり、心から御礼を申し上げます。

本総会は日本赤十字社に勤務する様々な職種の職員が全国から一堂に会し、医療及び赤十字事業に関する知識と技術の向上を図ることを目的とする一大イベントです。本年も多数の会員と様々な分野の演題がここ杜の都仙台に集結いたしました。

今年度は診療報酬改定年度にあたり、厳しい国家財政の中、救急・周産期・小児医療、手術料等への評価の充実により、医療費全体で10年ぶりのプラス改定となりました。今改定では医療機能の分化・連携を推進するため、地域の中核病院に対して手厚い評価が示されており、赤十字病院では急性期医療を中心に経営の改善が大きく期待されるところであります。人間のいのちと健康、尊厳を守るという赤十字の使命、原則に基づき、質の高いより良い医療を提供してゆくためには健全経営の裏付けと継続が重要であります。各病院が診療報酬制度へ適切に対応し、経営基盤を磐石にするため、今後の医療政策の動向も注視しながら地域ニーズ、医療提供体制の状況を的確に把握し、病院機能や役割を見定めていく必要があるものと考えます。

医師不足の問題がメディア等に取り上げられ久しくなり、また病院勤務医の過重労働問題等も重なり「医療崩壊」という言葉が社会的な問題となっています。このような状況の中、地域医療再生計画など様々な財政支援策が全国的に展開され、また臨床研修制度の見直しなどの制度改正も施行されるなど、国を挙げて解決に向けた対策が行われており、赤十字病院においても地域医療を守るため、積極的な取り組みをいただいているところであります。医師不足問題は、医療提供体制の維持など安定した病院運営基盤に大きな影響を及ぼす要因であり、早急な対策の構築が求められるところでありますが、背景には複雑で多様な問題が残されており、特に地方を中心とした医療再建を見るには未だ先行きは不透明であります。病院運営を取り巻く環境は日々変化し、厳しさを増してきております。

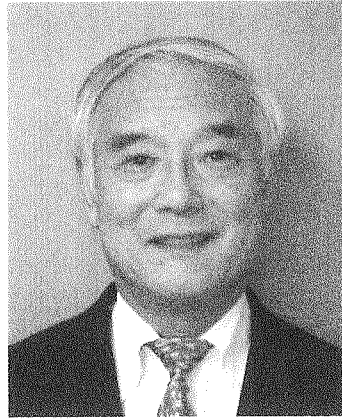
---

しかしこのような時にこそ、赤十字施設間での結束をより固め、地域との連携を更に深めていくことが大切であり、赤十字全体が同じ目標を目指し、一体となることにより諸問題の改善、解決に繋がることを願っております。

皆様ご存知の通り、災害時の救護活動は赤十字の重要な使命のひとつであります。今年に入り1月にハイチで、また2月にはチリと相次いで大地震が発生いたしました。甚大かつ深刻な被害を受けた現地において一刻の猶予も許されない救護活動が強く求められる中、赤十字病院には医療チームの編成・派遣のために早急な対応をいただきました。お蔭様で被災地へ医療チームを迅速に派遣することができ、職種間での連携は勿論のこと、現地スタッフとの密な連携のもと質の高い救護活動を継続して実施することができました。この場をお借りし御礼申し上げます。本年度の総会では「今こそ力を合わせ、医療の荒波を乗り越えよう」というメインテーマが掲げられておりますが、これらの救護活動も職員が常時から訓練及び入念な準備に取り組んでいるからこそ、為し得たものであり、医療を取り巻く環境がますます厳しくなる中、この荒波を乗り越えるためには、赤十字職員が一丸となり力を合わせることに肝要であります。本総会はそのための礎として貴重な機会でありますので、会員の皆様においては、知識と技術の向上のため本会を最大限ご活用いただくとともに、更なる赤十字の活性化に向けてのヒントを見出して頂ければ幸いです。

今回の総会の開催にあたりましては、総会会長である石巻赤十字病院の飯沼一字院長をはじめ、関係者の皆様に深く感謝申し上げます。今後とも本学会の更なる発展のため一層のご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

ごあいさつ  
「今こそ力を合わせ、医療の荒波を乗り越えよう」



第46回日本赤十字社医学会総会  
会長 飯沼 一字  
(石巻赤十字病院 院長)

第46回日本赤十字社医学会総会を東北ブロック、石巻赤十字病院が担当して平成22年11月11日(木)、12日(金)の2日間、宮城県仙台市で開催させていただきます。

総会のメインテーマを「今こそ力を合わせ、医療の荒波を乗り越えよう」といたしました。今、私たちを取り巻く医療環境は、多くの困難な問題を抱え、まさに“医療の荒波”の真ただ中にあるといえます。このような時こそ、全国の赤十字がそして病院が丸となって力を合わせなければならないと考えます。私どもの病院がある石巻は、400年前に仙台藩士支倉常長が伊達政宗の命を受け、エスパニアとの貿易交渉のため、木造帆船サンファンバウティスタで出帆した土地であります。先人の成し遂げた偉業に思いを馳せながら、私たちが直面しているこの“医療の荒波”を乗り越える努力を結集したいと願って、このようなテーマのもとに全国の仲間が集まることを期待しています。

特別講演は、朝日新聞アメリカ総局長や論説委員を歴任し、ニュースステーションのキャスターも務め、現在朝日新聞石巻支局長の高成田享氏にお願いしました。「魚を見れば世界が見える」のテーマでお話しいただく予定です。魚の町石巻から発信するメッセージにご期待ください。

教育講演には、医工学を駆使して人工臓器の開発を積極的に推進している、東北大学加齢医学研究所の山家智之教授による「荒波を乗り越えるための医工学と人工臓器」を予定しております。

第46回総会では新たに要望演題に「研修医による症例発表」を追加しました。シンポジウム8題、要望演題に240題、一般演題に352題、計600題のご応募をいただきました。プログラム編成は、要望演題が口演、一般演題は口演とポスターとさせていただきます。参加者による活発な討論を期待しています。

「医療人の集い」では、石巻ならではの食材を用意して、たっぷりと“石巻づけ”になっていただくつもりです。アトラクションは、地元発のユニークな企画を考えています。是非ご期待ください。

会場の仙台国際センターは、「青葉城恋歌」にも唄われた広瀬川の畔、伊達政宗の騎馬像が建つ青葉城跡の入り口という静かな環境のなかにあります。多くの赤十字の皆さんに医学会総会でお会いし、学会前後に石巻へも足を伸ばしてくださるのを心待ちにしています。